

# 中国語の言葉づかい

李 永 寧

## Wording in Chinese Language

Y. N. Lee

### はじめに

“言葉づかい”とは、言葉の使い方、ものの言い方であるが、下述拙文では、中国語における、①呼びかけ言葉。②代名詞の使い方。③タブー・婉曲言葉。④敬語などについて初歩的な深求を試みたい。

日常生活において、妥当な言葉づかいの実践は難しい。丁寧すぎると、殷勤無礼だと言われかねない。簡素すぎる言葉づかいだと、無愛想とか、なれなれしいと受け取られかねない。

小学校の国語の教科書では、父親に対する呼びかけ言葉は、「お父さん」で、それがいわゆる標準語となっている。小学生にとっては、先生の教えてくれたことは神様のお教えに等しい。それで、家に帰って早速「お父さん、ただいま！」とやったら、おやじにポカリとやられた、と言う思い出話を紹介した文章を見たことがある。「おっとう、かえったぞ！」と言うべきで、「お父さん」なんて、しらじらしいと言うのである。いわんや、「お父様」なんて言い方は「斜陽族」なんて言葉がすでに死語となっている今時分、こっけいでさえ感じるのではないと思われる。

魯迅の《論“他妈的”》という文章の中で、本来ならば、タブー言葉であるべき“他妈的”について述べ、牡丹が中国の“国花”であるのなら“他妈的！”は中国の罵り言葉を代表すべき“国罵”とでも言うべきである、と言い、“我曾在家乡看见农父子一同午饭，儿子指一碗菜向他父亲说：‘这不坏，妈的你尝尝看！’那父亲回答道：‘我不要吃。妈的你吃去罢’”という例で文章をくくっている。“他妈的！”とは、人の道にはずれた畜生のすることで「ちくしょう！」という意味だが、日本語でも、「ちくしょう、うめえ！」とか、「ちくしょう、うめえことしやがったな！」とか言う使い方がある。ちょっと口に出すのがはばかれる言葉だが、親しみを込めた言葉づかいだと言えないこともない。

ここに、女と男がいるとする。男が女にひどい事をして、女が男を告訴する場合、多少教養ある女性なら、男を呼び捨てにしない。必ず、「〇〇さんは私に、こんなにひどい事をした！」と訴えるだろう。第三者に呼び捨てで名指す男はその女性の夫である場合が普通である。

また、「私とあの人は、オレ、オマエの間柄だ」とか、「あいつに呼び捨てにされるほど親しい間柄ではない！」とか言う。期末で、成績表を教務課にださなくてはならない時期である。教師に学生が打診する：「先生、オレの単位大丈夫でしょうか？」。教師：あなたは私のことを、オマエと呼ぶのでしょうか？」学生：「先生、僕の単位大丈夫なんでしょうか？」。教師：「君は私のことを君と言うのですか？ 先生、私の単位大丈夫なんでしょうか？」と言いなさい。日本語がちや

んどできないと、外国語の勉強はすすまないよ！」。そう説教する教師が居る。ある大学の教師は、「ぼくは、ぼくは・・・」を連発する。学生たちはその教師を「ぼくちゃん」とかげで呼んでいる。

当を得た言葉づかいは難しい。中国語においても同様である。以下、中国語の言葉づかいついて少しずつ、さぐって行こう。

### ①呼びかけ言葉

中国は、礼を重んじる国柄だと言われてきた。1949年から1964年、1965年頃迄は、病院で診察待ちをしていて呼びだされる時は、必ず、「李永宁同志！」と呼ばれた。文化大革命がはじまってから「李永宁！」と呼び捨てにされるようになり、そのうち、「姓李的！」となった。むっとした。神経が逆なでされたようなものだった。が、しかたがなかった。

中国の歴史は、四千年とも五千年とも言われているが、古くから国家を形成し、その国を治める各種の行政形態や制度の外に、長期の生活実践から、人間関係を円滑化させて行くため言語基準や道徳基準が形成されて行ったものと見られる。そしてその集大成が“礼”であると思っっている。“礼”と言う漢字を《说文》では、“礼，履也，所以事神致福也。”と解釈している。神という絶対的存在に対してする行為である、と言うことである。そして、そうすることで幸がもたされると言う理解である。“礼也者，理之不可易者也”（《礼记・乐记》）“礼也者，义之实也”（《礼记・礼运》）“礼也者，合于天时，设于地财，顺于鬼神，合于人心，理万物者也”（《礼记・礼器》）“夫礼，天之经也，地之义也，民之行也”（《左传・昭公二十五年》）と“礼”の格付けがエスカレートされ、礼にのつとることが、絶対的に正しいこととされる。そして、中国語には“天经地义”と言う熟語が定着している。周公旦の著したと伝えられているものの、実は後人の増益したらしい書《周礼》では、道徳基準の最も重要なものは、“君仁、臣忠、父慈、子孝、兄良、弟悌、夫义、妇听、长惠、幼顺”となっているが、数千年来、絶対的権力を握っていた為政者は、“君仁、臣忠、父慈、子孝、兄良、弟悌、夫义、妇听、长惠、幼顺；”とし、特に“臣忠、子孝、弟悌、妇听、幼顺”ばかりにウェイトを置いてしまって、“君仁、父慈、兄良、夫义、长惠”をほとんど覆い隠してしまった。公正な言い方をすれば、“父不慈子，不孝”で、“君不仁，不忠”、“兄不良，不悌”、“夫不义，不妇听”、“长不惠，幼不顺”でもよいわけである。

もっと現代的な考えで言えば、give and take & take and giveでよいはずである。しかし、歴史的に言って、ずっと、不忠・不孝＝死罪であった。本当にむちゃくちゃな道理である。君主の仁に対して、忠。父の慈に対して孝。仁、慈が第一義的にあるべきものなのであって、有無を言わせない忠・孝の強要は横暴である。

とは言うものの、現実の言葉づかい、とくにそのうちの呼びかけ言葉には、「対等でないもの」の影響が色強いことがよくある。中国最終の封建王朝の根城であった北京語にその根強さが見られる。封建的なものの一つの価値感は、「年功序列」である。年寄りに年を聞く場合、“你几岁了？”はだめである“你”の敬体である二人称を使って“您几岁了？”でも呼び掛けられた年寄り、むっとした顔でしらん振りを続けるだろう。“您高寿？”とか、“您多大年纪了？”と呼び掛けないといけない。そう言う言い方が正しい言葉づかい、と言うことになる。

中国人は長いこと封建社会で生活してきた。それで、自分の血のつながりの関係での呼び名がことの外に複雑である。父の兄は“伯伯”（伯父）で、父の弟は“叔叔”（叔父）である。母方の兄弟は一律に“舅舅”（舅父）。父方の姉妹は“姑姑”（姑妈）で母方の姉妹は“阿姨”（姨母）。父方の兄弟で自分と“同輩”つまり、父方の兄弟の男の子を“堂哥”“堂弟”、女の子を“堂姐”“堂

妹”。母方のをそれぞれ“表哥”“表弟”“表姐”“表妹”などと細かく分けてよぶ。日本語ならば、「おじさん」「おばさん」「いとこ」で足りる。しかも「いとこ」は「一ちゃん」「一さん」で事足りる。母の父母のことを“外祖父”“外祖母”と言い、自分の息子の子を“孙子”と言い、娘の子を“外孙”と明確に区別して言う。その点、英語は大変簡単である。つまり、brother, sister, nephew, cousin, grandfather, grandmother, grandson, granddaughter, uncle で、血のつながりのないものは、mother-in-lawとかfather-in-lawであらわす。つまり「法律上での」というのをつけ加えればいいのである。

自分とは血縁関係も親戚関係もない赤の他人に、“爷爷！”（祖父）、“奶奶！”（祖母）、“哥哥！”、“姐姐！”、“妹妹！”、“弟弟！”とかを呼びかけの言葉として使うのは日本語でも同じだが、“解放军叔叔！”とか“阿姨！”とかは、日本語では「おにいさん」・「おねえさん」だ。「兵隊さんのおにいさん」・「保育のおねえさん」に相当する、親しみを込めた言い方である。

“解放军叔叔！”、“(托儿所的) 阿姨”と言うように何ら親属関係を持たない相手への呼びかけについてふれたついでに、非親属に対する親属名称を用いての呼びかけについて、もう少し詳しく考えてみよう。それには中国の封建社会における生活をことこまかく描いた小説《红楼梦》の中から二段（ふたくだり）を例に出して研究してみると面白い。

《红楼梦》卷三の“接外孙贤母惜孤女”：黛玉正不知以何称呼，众姊妹都忙告诉黛玉道：‘这是琏嫂子。’黛玉听她母亲说过，大舅贾赦之子贾琏，娶的就是二舅母王氏之内侄女；……。黛玉忙陪笑见礼，以‘嫂’呼之。这熙凤携黛玉的手，上下细细打量了一回，便仍送至贾母身边坐下，因笑道：‘天下真有这样标致人物，我今日才算见了！’况且这通身的气派，竟不象老祖宗的外孙女儿，竟是个嫡亲的孙女，怨不得老祖宗天天口头心头一刻也不忘。只可怜我这妹妹这样命苦，怎么姑妈偏就去世了！……。我一见了妹妹，一心都在她身上，又是喜欢，又是伤心，竟忘记了老祖宗，该打，该打！……。妹妹几岁了……’。母をなくし、病弱の父を残してはるばると“外祖母”（母の母）のところの居候になろうという林黛玉の弱い立場が、王熙鳳を“嫂！”（実は“姨”で封建的考えからすると、“嫂”の方が“姨”より格が上）と呼ばせる。そのおかげとして、王熙鳳は、夫の母親である“贾母”（王熙鳳は“老祖宗”と呼んで、ゴマをすっている）に黛玉を“孙女”（“孙女”は“外孙女儿”より格が上）と同じだと言う。そして黛玉も格が上の“姑妈”（実は“姨妈”）と呼び、王熙鳳も自分自身の実の妹と同じ“妹妹”と呼んで、そのおかげとしてしている。

《红楼梦》卷四十七の“呆霸王调情遭苦打”柳湘莲道：‘我把你这瞎了眼的，你认认柳大爷是谁！……还要说软些，才饶你。’薛蟠哼哼的道：‘好兄弟。’湘莲便又一拳；薛蟠‘暖’了一声，道：‘好哥哥。’湘莲又连两拳；薛蟠忙‘暖哟’叫道：‘好老爷，饶了我这没眼睛的瞎子罢！从今以后，我敬你怕你了。’薛蟠とはカネと権力をもてあましている“官商”のぐうたら息子である。柳湘蓮は貧乏ではあるが、武芸をもたしなむ、役者にでもしたいような多芸な貴公子である。女色にはあきた薛蟠は柳湘蓮に目をつけ、ホモの関係をもとうとする。二者は同じ年頃、ことによつたら柳湘蓮が年下である。ナメやがって、ふざけるな！と柳湘蓮は薛蟠を半殺しにする。上文の“兄弟！”→“哥哥！”→“老爷！”で薛蟠が土下座して、「オレが悪かった、カンベンしてくれー！」という悲鳴が聞こえてくる。なお、“你认认柳大爷是谁！”とは、「おめえ、おれ様をだれだと心得とる！」の意。

上に述べた、小学生が兵隊さんに呼びかけるのが、両者の間の年令差が兄ほどであっても、「おじさん」に相当する。“解放军叔叔”とか“雷锋叔叔”であり、保育所や幼稚園の子供が保育さん

を呼ぶ時は、実際の年齢差が姉程であるが、「おばさん」に相当する“阿姨”である。“伯父”、“伯母”は自分の父や母より年の大きい人に対する呼びかけ言葉だが、夫の父母、妻の父母に対しては、一律に、“伯父”、“伯母”を使う。中国人の伝統的な考え方からすると、実際より年上に言うことで、赤の他人に遠慮し、または尊敬の意を込めるのである。《末代皇帝》(ラスト・エンペラー)の映画をみると、三歳、四歳の皇帝につかえる筆頭宦官は見たところ70歳ほどの老人であるが、幼少の皇帝に“您老人家!”“您老人家!”と呼んでいる。文字通りには「御老体!」である。かの葵の紋の「御老体」を思い出して、笑い出してしまう。

職業による、呼びかけ言葉。“师傅”は、職人に対する呼びかけ言葉だが、文化大革命後期頃の1976年から数年間盛んに使われ、どんな職業の人にも使われた。火葬場のおんぼうから大工・師匠・労働者はもちろん、教師、医者、国家公務員・・・すべてに使われた。しかし、その後は「鎮静化」し、工場で働く、ホワイトカラーを含む従業員に限られた。大工・芸能界の師匠などに対する呼び掛け言葉である。“大夫”は医師に対する呼び掛け言葉であるが、現在では病院で働く医師・看護婦・雑役などの仕事をしている人も含めすべてに使われている。“老师”は「先生」という意味であるが保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学の教員、学校で働く雑役、ボーイマン、ガードマン、受付、事務の仕事をしているすべての人に使われている呼び掛け言葉になっている。以前大学の教員への呼び掛け言葉は“先生”であった。高校までの教員は“老师”。なお、“教授”は以前は呼び掛けの言葉としては使われなかった。誰も王力先生に面と向って“王教授!”なんて言わなかった。いわんや“教授!”なんて言う言い方はなかった。しかし、現在では使われているようである。

通称。1949年末頃から通称は“同志”であった。相手が男であっても、女であっても、どんな職種であっても。子供に対しては、“小同志”。年老いた人は“老同志”。とくに男女区別して使いたい場合は、“男同志”“女同志”。「見知らぬ人」は“不认识的同志”。今では警官とか軍人に対してのみしか使われない。

姓名を使つての呼び掛け言葉。姓の前に“老”をつける。“老李”“老张”、別に年を取った相手に限ったわけではない。年若い人、または、後輩に対して“小李”“小张”。八十歳ほどの毛沢東が六十歳ほどの廖承志に対しても“小廖”と呼んでいた。姓名の名の部分だけで相手に呼びかけるケース、“恩来”“小廖”“少奇”等、親しみをこめた呼び掛け方である。姓名、つまりフルネームで呼ぶ場合。同級姓、夫婦が第三者に自分のつれあいを名指す時。法廷などで被告を呼ぶ場合など。やや冷たい感じだ。

なお、通称としては、1949年以来ずっと“同志!”であつて。“先生!”“太太”(奥さん)“小姐”(おじょうさん)はすたれてきたが、近年は、むしろ、“同志!”がすたれ、“朋友”が抬頭して来て、“先生”“太太”“小姐”が盛んに使われるようになって来た。

## ②代名詞の使い方

第一人称“我”(複数：“我们”) 第二人称“你”(複数：“你们”) 第三人称“他”(複数：他们) 她(複数：“她们”)であり、“你”の敬語は“您”。

“他”“她”の敬語は“他”。

“您”は“你”の敬語であるが、複数は“您二位”“您几位”と言って“您们”は書面ではときどき見掛けるが、耳でふれることはない。つまり言わない。“他”は“他”“她”の敬語であり“他们”とかは書きもしないし、言いもしない。なお、“他”は、現在ではあまり使われないが、話し

手と聞き手とも尊敬すべき対象にのみ使う。例：“爸爸，我爷爷您，是汉族吗？”（お父さん、わたしのおじいさんは漢民族なの？）において、“爷爷”（おじいさん）は、“爸爸”（お父さん）と“我”（わたし）にとって尊敬すべき存在である。①我们学校什么时候放假？②你校什么时候放假？①我们认为这件事这么处理不好。②我认为这件事这么处理不好。において、①は②より相手を尊重した言い方がある。

### ③タブー・婉曲言葉

中国の南方都市広州では“乾、賒”、という音を避けて“猪肝、猪舌”を“猪脘”“猪脘”と言い、“傘”は“散”の音と同じなので“遮”と言う。

中国語で目ざまし時計のことを“闹钟”と言うが、人にプレゼントをする場合、目ざましのような置き時計である“钟”は避けるのが普通である。“送钟”（置き時計をおくる）と“送終”（野べの送りをする）と同音なので不吉だからである。

英語で、four-letter word というのがあるが、この文章の前の方で挙げた“他妈的！”もこの部類に属するもので、タブー言葉である。《骆驼祥子》という老舍の作品の中で、同じ車引きの仲間に、祥子は“靠的是那个劲！”と車屋の主人の辣腕娘トラ娘との関係をほのめかされてしまうセリフがある。

“厕所”（トイレ）を“一号”と言い、トイレに行くことを“方便”などと言う。出された料理がまづくて、そのことを主人側にきかれた場合、“我不太习惯它的味道。”とか言う。

こうした言い方はいわゆる婉曲の言葉である。

### ④敬語

①呼びかけ言葉の中で、相手の“輩数”を実際のそれより多く言うことや②の代名詞の使い方の中で、“您”“您”と言う使い方などがある。なお、“輩数”とは先輩・後輩の輩でなく世代の隔差を中国語ではさす。

### おわりに

すでに述べたように、日本語・中国語にかかわらず、その言葉づかいを適切に使うことは、たやすいことではない。中国語ではとくに、親族に関する呼びかけ言葉が複雑である。漢代の書で《尔雅》というのがあり、その中で“释亲”という章があり、親族のよりこまかい呼びかけ方が書かれているが、複雑でつまらない。中国でも核家族化がすすみ、私でもそうした親族の呼び方はよくは知らないし、興味もうすい。正直言ってあまりわからない。終いには、そんなこと知ったところでどうなるのか、とやけを起こしてしまった。しかしそうしたものをある程度理解していないと、《红楼梦》のような古典文学を含む中国文化をより深く理解出来ない。民族的なもの力は根強い。そうしたものが理解できないことは、現代中国のよりくわしい理解が、中国人であっても出来なくなることである。このことがこの拙文をおえるにあたって再び思うことである。

### 参考資料

礼貌语言初探 陈松岑 商务印书馆 1989年 北京  
现代汉语词典 商务印书馆 1996年 北京  
红楼梦 曹雪芹 北京师范大学出版社